

古里再生へ職業訓練

東日本大震災で仕事を失った被災地の住民の再就職を目的とした職業訓練が23日、遠野市の森林総合センターなどで始まった。約半年間の訓練で住宅建築と設備施工の専門技術を学び、生活再建と古里の再生に役立つ。

遠野で被災者入所式

半年間技術を習得



第一期の訓練生は金石、大船渡などの公共職業安定所管内から参加した30〜60代の19人。同総合センターで行われた入所式に出席

入所式で再就職への決意を新たにする訓練生たち—遠野市

し、技術習得と再就職への決意を新たにしました。

仮設住宅建設完了後に需要と雇用が見込まれる「住宅建築施工科」と「住宅設備施工科」のコースに分かれ、6カ月間にわたって講義と実習に取り組む。

職業訓練は震災に対応した国の雇用対策事業で、2012年度末の第5期まで実施が決まっている。花巻市の雇用・能力開発機構岩手センター（渡部勲統括所長）が実施主体となり、遠野市と遠野職業訓練協会が協力する。

平日の午前9時から午後4時まで訓練を行う日程に配慮し、沿岸部から車や公共交通機関で通いやすい遠野

市で実施することになった。訓練生のためにJR遠野駅から無料送迎バスを毎日運行する。

渡部統括所長は「被災地が本格的に復旧していく過程で、住宅や

店舗、公共施設の建設需要は高まる。後方支援拠点でもある遠野で訓練に励み、再就職と生活再建につなげてほしい」と期待する。陸前高田市米崎町の自宅が全壊し、米崎中

校庭の仮設住宅で生活する左官業及川幹雄さん(56)は「専門的な技術をしっかり学び、自分の生活の再起を図るとともに、古里復興の力になりたい」と意気込む。